

令和8年度 東京都内湾水生生物調査 5 月底生生物調査速報

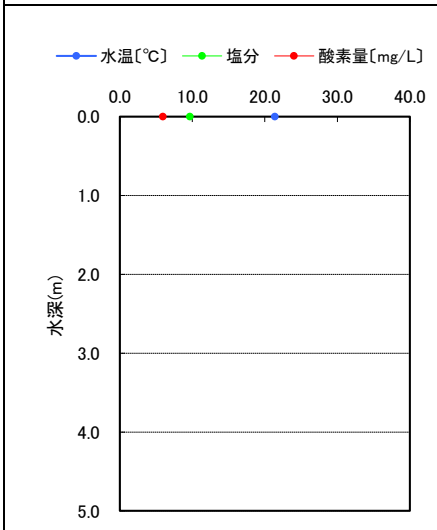
東京都内湾水生生物調査

地点名 多摩川河口干潟 調査年月日 令和8年5月15日 8:43~10:03

<調査地点> <底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm



多摩川左岸側（東京都側）の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。



貝殻片や植物片等の夾雑物が交じる。



底質は砂の混じった固めの泥であった。



干潟に降り、小型の採泥器を用いて底泥を採取する。



殻長4cmほどになる。汽水域の砂底から泥底に生息するが、河口域にいるものは出水等の影響を受けやすい。



体長2cmほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。



干潟でよく見られるカニ。甲幅4cmほどで、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。



「ヒモムシ」と称される動物群。文字通り紐状で、とてもちぎれやすい。肉食性で、生きた多毛類等を体内に収納している吻(ふん)を伸ばして捕食する。

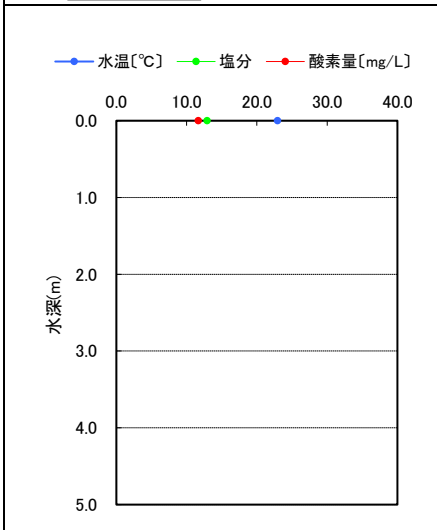
東京都内湾水生生物調査

地点名 森ヶ崎の鼻 調査年月日 令和 8 年 5 月 15 日 10:05~11:27

<調査地点> <底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm



羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りには「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。



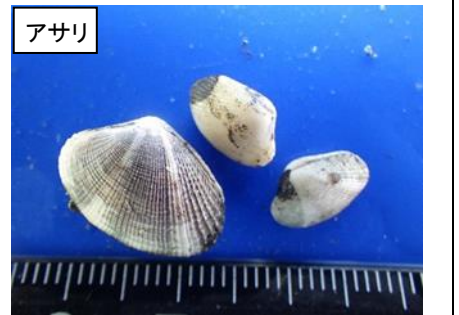
ふるい上には貝殻片が残った。



底質の状況
底質は砂の混じった固めの泥であった。



調査の様子
採取した底質をふるいにかける。本地点では貝殻片が残った。



アサリ
卵型で殻長 4cm ほどになる。殻はよく膨らみ、殻の表面は光沢の弱い布目状となる。



ホトギスガイ
砂泥底に生息するムラサキガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。



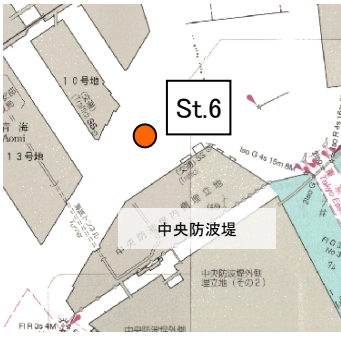



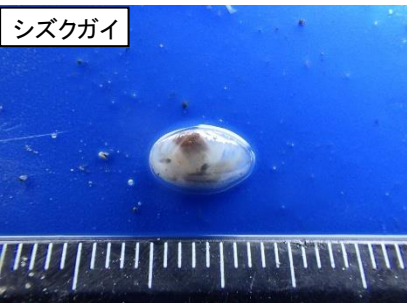



ムロミスナウミナナフシ
※解説は多摩川河口干潟を参照。



タカノケフサイソガニ
日本全国に分布し、河口の転石の下や護岸の隙間等に生息する。成体のオスのハサミの付け根に毛の房がある。周辺の転石下で確認された。

【調査対象外】

東京都内湾水生生物調査

<p>地点名 St.6</p>	<p>調査年月日 令和 8 年 5 月 15 日 11:29~12:20</p>																																																								
<p><調査地点></p>	<p><底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm</p>																																																								
	 <p>東京港フェリーターミナルの正面で船上から採泥を行った。航路であるため、水深は 12.2m と深い。</p>																																																								
<table border="1"> <caption>水深別の水質データ</caption> <thead> <tr> <th>水深 (m)</th> <th>水温 (°C)</th> <th>塩分</th> <th>酸素量 (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>1.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>2.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>3.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>4.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>5.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>6.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>7.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>8.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>9.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>10.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>11.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>12.0</td><td>20.0</td><td>30.0</td><td>2.0</td></tr> </tbody> </table>	水深 (m)	水温 (°C)	塩分	酸素量 (mg/L)	0.0	20.0	30.0	2.0	1.0	20.0	30.0	2.0	2.0	20.0	30.0	2.0	3.0	20.0	30.0	2.0	4.0	20.0	30.0	2.0	5.0	20.0	30.0	2.0	6.0	20.0	30.0	2.0	7.0	20.0	30.0	2.0	8.0	20.0	30.0	2.0	9.0	20.0	30.0	2.0	10.0	20.0	30.0	2.0	11.0	20.0	30.0	2.0	12.0	20.0	30.0	2.0	 <p>ふるい上には貝殻片が残った。</p>
水深 (m)	水温 (°C)	塩分	酸素量 (mg/L)																																																						
0.0	20.0	30.0	2.0																																																						
1.0	20.0	30.0	2.0																																																						
2.0	20.0	30.0	2.0																																																						
3.0	20.0	30.0	2.0																																																						
4.0	20.0	30.0	2.0																																																						
5.0	20.0	30.0	2.0																																																						
6.0	20.0	30.0	2.0																																																						
7.0	20.0	30.0	2.0																																																						
8.0	20.0	30.0	2.0																																																						
9.0	20.0	30.0	2.0																																																						
10.0	20.0	30.0	2.0																																																						
11.0	20.0	30.0	2.0																																																						
12.0	20.0	30.0	2.0																																																						
<p>底質の状況</p> 	<p>シズクガイ</p>  <p>半透明の薄く壊れやすい殻を持つ。貧酸素耐性があり、無酸素状態でも水温が 25°C であれば 1 日は生存できる。有機汚濁の指標種の一つとされている。</p>	<p>チヨノハナガイ</p>  <p>内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素の海域でも酸素がある期間に短期的に発生する。</p>																																																							
<p>チロリ科</p>  <p>体長 10cm ほどになる。4 つの鋭い牙(顎)がついた吻(ふん)を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。</p>	<p>ゴイサギガイ</p>  <p>殻長 5cm ほどになる。水深 50m までの砂泥底に生息する。平べったい殻は白く光沢がある。</p>	<p>スピオ科</p>  <p>貧酸素環境に耐性があるシノブハネエラスピオの可能性が高く、東京湾の内湾部で多く見られる。</p>																																																							

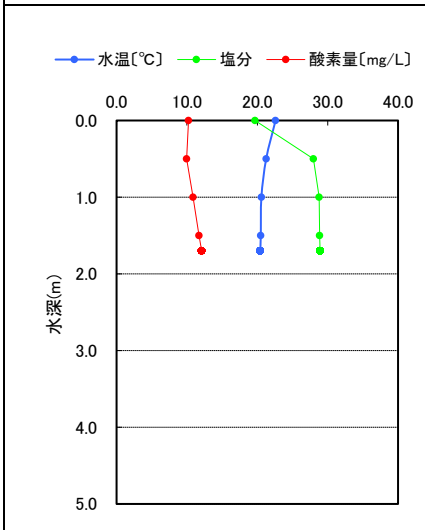
東京都内湾水生生物調査

地点名 三枚洲(荒川河口) 調査年月日 令和 8 年 5 月 15 日 12:30~13:39

<調査地点> <底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm



荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深は 2.7m であり、船上から採泥した。



ふるい上には貝殻片が少量残った。



底質は細砂であった。



アラムシロ
殻高 15mm ほどになる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。



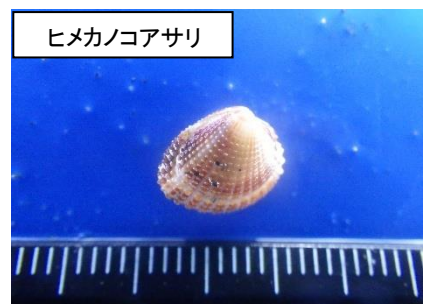
チヨノハナガイ
※解説は St.6 を参照。



クチキレガイ
殻長 15mm ほど。円錐形の殻はやや厚く、灰白色から黄白色の地色に赤褐色の細い線をめぐらす。潮通しの良い干潟線から潮下帯のアマモ場等の砂泥底に生息する。



マテガイ科
大きなものでは 10cm 以上になる縦長の二枚貝。砂底に縦穴を掘って潜るが、急激な塩分の変化等の刺激を受けると飛び出すことが知られている。



ヒメカノコアサリ
殻長 8mm ほど。内湾の砂泥底に生息する。殻は薄く、強い放射肋(ほうしゃろく)が特徴。

令和 8 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月底生生物調査速報

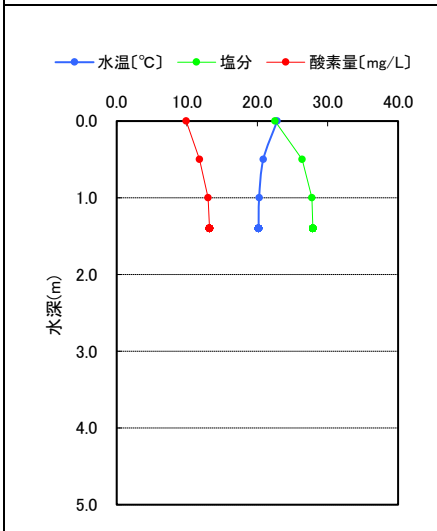
東京都内湾水生生物調査

地点名 St.31(多摩川河口) 調査年月日 令和 8 年 5 月 15 日 14:02~15:50

<調査地点> <底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm



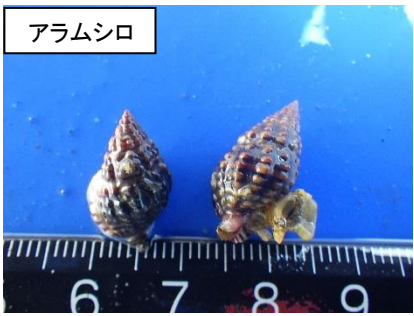
多摩川河口から 1.5km 付近の浅場で調査を行った。水深は 2.4m と深く、船上から採泥した。



ふるいには貝殻片が残った。



底質はシルト混じりの砂であった。



※解説は三枚洲を参照。



※解説は森ヶ崎を参照。本地点では 2~2.5cm サイズの個体が多数採集された。



※解説は St.6 を参照。



成長すると殻長 10cm を超える。外来種で、貧酸素環境に耐性を持ち、現在では東京湾を代表する二枚貝となっている。底質が還元的な状態では硫化物によって殻が黒ずむ。



殻長 20mm ほどの桃色の殻が特徴的な二枚貝。内湾の干潟から水深 30m の砂泥底に生息する。近年、各地で個体数が減少傾向にある。本地点では死殻のみ採集された。